

科 目 群	マネジメント系科目群	科 目 名	情報システム構築プロジェクト マネジメント論 (産業技術大学院大学開講科目 名：プロジェクト管理特論2)	教 員 名	酒森 潔
-------	------------	-------	---	-------	------

概 要	情報システム構築におけるプロジェクト管理の進め方を、情報処理推進機構が発行している「高度情報化人材育成標準カリキュラム プロジェクトマネージャ」を基準に学習する。授業では、体系化された情報システム構築プロジェクトのカリキュラムでプロジェクト管理の知識を網羅的に整理しながら、実務事例の紹介を多く取り入れて具体的なプロジェクト計画や管理の方法を指導する。また、演習などを通してプロジェクト管理の知識をどのように実務に適用するか考えていくことで、知識と実践力の橋渡しを実現することを方針とする。		
目 的 ・ 狙 い	この授業は、学習者が IT 分野におけるプロジェクト管理技術の知識を習得するとともに、実務の事例やプロジェクトマネジメントのグローバル標準である PMBOK の知識体系との関係を体系的に整理することを目的とする。具体的には、学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得できる。 1. 情報システム構築プロジェクトの立上から終結までのプロセスを理解する。 2. 「情報処理技術者スキル標準」(プロジェクトマネージャ) を学習しシステム構築のプロジェクト管理について理解する。 IT 分野のプロジェクトプロセスと、グローバル標準である PMBOK のプロジェクトマネジメント知識体系の関連を理解する。		
前 提 知 識 (履 修 条 件)	情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理についてある程度の知識があること。		
到 達 目 標	上位到達目標		
	(ITSS レベル 4 相当) 中規模のアプリケーション開発プロジェクト (100 人月程度) を PM として実行できるようになる。 情報処理技術者プロジェクトマネージャ試験に合格する。		
	最低到達目標		
	(ITSS レベル 3 相当) あまり問題や制約のない小規模のアプリケーション開発プロジェクト (10 人月程度) を PM として実行できるようになる。 大規模な IT プロジェクトの PM 補佐、あるいはサブプロジェクトのリーダーができるようになる。		
授 業 の 形 態	形 態	実施	授業で実施する形態の特徴
	講義 (単方向)	—	
	講義 (双方向)	◎	講義中はオープンに質疑応答を受け、毎回の講義レポートのフィードバックを行う
	実習・演習 (個人)	○	単独で行う演習を入れる
	実習・演習 (グループ)	○	単独で行った演習をチームでまとめて発表する
	その他	—	
遠 隔 で 受 講 す る 際 の 留 意 点	基本的に遠隔受講可能である。ただし、演習の講義日はできれば自分の P C を持ち込んで受講してほしい。		
授 業 外 の 学 習	事前に LMS に U P する講義資料に目を通して授業に臨むこと。また、毎回配布する復習レポートに、授業のまとめ・意見を書いて提出すること。		
授 業 の 内 容	本講義は、情報処理推進機構 (I P A) が発行した PM カリキュラムにもとづいて作成した独自のレジユメで行う。毎回講義の重要ポイントの理解度確認のための復習レポートを課す。		

授 業 の 計 画	第 1 回	講義概要の説明と受講者のスキル診断：講義の目的と学習内容の解説し、学生が講義選択の判断ができるようにする。また、授業内容に反映するために、受講者の PM スキルの確認アンケートを行う。
	第 2 回	プロジェクト事例紹介：一般的なプロジェクト管理の定義と IT 分野におけるプロジェクト管理の実事例を紹介する。これにより、システム開発プロジェクトのイメージをつかんでもらう。
	第 3 回	プロジェクト事例研究：「システム開発事例研究」（A4 用紙 7 ページ）を読み、システム開発プロジェクトのプロジェクトマネージャが行う作業を考察する。また、簡単な体制図やマスタースケジュールの作成演習やチームでのリスク分析を通してプロジェクトマネージャの作業がどのようなものか体験する。
	第 4 回	プロジェクトの立上：プロジェクトが成立する過程を学習する。ポートフォリオマネジメントやエンタープライズ PMO など、プロジェクトが成立する背景についても理解する。
	第 5 回	プロジェクトのスコープ定義：プロジェクトに対するユーザ部門やマネジメントからの要求を基に、テンプレート、開発手法などを考慮してプロジェクトスコープを定義し、最終的に WBS の作成までを学ぶ。
	第 6 回	スケジュール作成と費用計画：スコープ定義で作成した WBS をもとにスケジュールを作成し、資源を割り当て、費用計画を作成するまでを学ぶ。
	第 7 回	要員計画：作成したスケジュールと資源要求をもとに要員の割り当てる方法について学ぶ。必要に応じて外部リソースの調達も計画する。最後にスケジュール作成から要員の割り当てまでの実例を解説する。
	第 8 回	品質管理計画やリスク管理計画：品質管理計画やリスク管理計画について学びこれらをプロジェクト計画の中に加味する方法を理解する。
	第 9 回	プロジェクト計画書の最終調整と計画書作成演習：最終的なプロジェクト計画のまとめについて学ぶ。そのあとチーム別になり、与えられたプロジェクトの状況説明をもとに、作業工数の見積りや要員の配分などを加味したプロジェクト計画書作成演習をおこなう。
	第 10 回	プロジェクト計画書作成演習（品川シーサイドキャンパス）：グループで計画書を完成させる。
	第 11 回	プロジェクト計画書の発表（品川シーサイドキャンパス）：作成したプロジェクト計画書をグループ別に発表し議論する。
	第 12 回	プロジェクトの進捗管理その 1：プロジェクトの進捗情報を把握するための実績情報の収集方法について学ぶ。
	第 13 回	プロジェクトの進捗管理その 2：プロジェクト実行時の変更管理、問題管理、進捗管理について学ぶ。
	第 14 回	プロジェクトの進捗管理その 3：プロジェクト実行時の資源管理、費用管理、組織要員管理、調達管理、品質管理、構成管理、リスク管理について学ぶ。
	第 15 回	プロジェクトの終結・完了評価：プロジェクトの終了方法、完了後のプロジェクト評価の方法について学習する。最後に進捗報告に関するグループ演習を行い発表する。
	試 験	第 16 回目に期末試験を行う
成 績 評 価	次の 3 つのポイントで評価する(合計 100 点満点) <ul style="list-style-type: none"> 課題 20 点 第 3 回講義後課題を課す。個人で作成し 1 週間以内に提出する。 プレゼンテーション（発表内容） 20 点 チーム単位で発表内容によって評価する。その結果をチーム内での貢献度により個人の得点を決定する。 期末試験 60 点 情報処理技術者試験 P M 午後 I 記述式問題レベルの試験を行う 	
教 科 書 ・ 教 材	LMS システムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること	
参 考 図 書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK ガイド）第 4 版』（PMI、2008 年、ISBN-978-1-933890-68-5）US\$65.95 『情報処理技術者スキル標準』 http://www.jitec.jp/1_17skill/pdf20040329/FE0329.pdf	

獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容
メタ	コミュニケーション能力	○	プロジェクト管理におけるコミュニケーション能力を学ぶ
	継続的学修と研究の能力		
	チーム活動	○	何回かの演習があり、チーム活動を実践する
コア	革新的概念・アイデア発想力		
	社会的視点及びマーケット的視点		
	ニーズ分析力		
	モデリングとシステム提案		
	マネジメント能力	○	プロジェクトをどのようにマネージするかを学ぶ
	ネゴシエーション能力		
	ドキュメンテーション能力	◎	課題作成や演習においてドキュメンテーション力をつける